



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113  
〒496-0036

代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>



利用者さん急募／ナイス・デイ <M・O>

ある日の朝、「もうちょっとしたら、ケアマネさんと一緒にナイス・デイに行くから」と利用者さんのWさんから1本の電話。ケアマネさんがナイス・デイの施設を知らないということでは是非是非案内したいというWさんの思いから実現した。まず、先月オープンしたばかりの喫茶“てのひら”へ。そこでお二人はお茶タイム。その後、デイサービス、小規模多機能、有料老人ホーム(本館・新館)と案内させていただいた。Wさんのケアマネさんには家族的であったかい感じがすると大変気に入って頂けた。ナイス・デイでは利用者さんの体調や様子を見ながら“今日は足湯行こうか？”“みんな、畑の豆ちぎって～”“〇〇さん庭の草取り一緒にやろ～”“天気が良いからドライブがてらちょっと遠くの喫茶店に行こうか？”等々、月の計画以外に突発的なことも多々だが、何とも楽しいひと時でもある。

多勢の場所が苦手な方、他施設であまりなじめない方、お出かけ好きな方等々、多くの方にナイス・デイを知って頂くために、見学・お試し大歓迎です。どうぞ、一度、ナイス・デイにお越しください。お待ちしております。



6月の利用状況と行事予定

- ☆ナイス・ケア(定員なし)  
…新規サービス大歓迎
- ☆愛宕の家(定員17名)  
…入居者12名
- ☆ナイス・ホーム(定員21名)  
…登録者14名
- ☆つしま紹介所  
…求職者・求職者大歓迎
- ☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
6	5	4	5	6	6	4

上記の数字(人数)は定期利用者数  
(☆募集中★満員 お気軽に問合せ下さい)

6月行事

- 10日 外食DAY
- 20日 避難訓練
- 28日 誕生会

みんなの“てのひら”／愛宕の家 <A・H>

今年最初の通信にスタッフの手が載っていたのを覚えていますか？それぞれの思いが詰まった写真でした。手は正直。怒りや喜びや悲しみや優しさや全ての感情が表れています。利用者さんも同様。気持ちを言葉で表せず、机を叩いてサインを送る方、不安な気持ちから何かにつかまろうとされる方、歌を聞き感動して大きな拍手をされる方、何かちょーだいと嬉しそうに手を出される方。そして私もそうなんだろうな。料理をする時、子どもを抱く時、介助をする時…。色々あるけど、いつも安心の手であることを心掛けたい。



看護師コーナー／～誤嚥・摂食障害～日々関わる中での疑問や不安を解決できたなら… <M・T>

保育園から帰ってくるなり「まんま～！」が始まる息子。歯や健康のことを考えると3歳までは甘いものは必要ないと聞くけれど、私は夕飯に支障が出ない程度にあげている。その時の笑顔ったら素晴らしい。  
**疑問 10**「食べさせようとしても口を開かない」・・・これはその人ごとに理由をじっくり考えたい。無理やりに口を開いて食べさせることは出来れば避けたい。脱水や栄養障害が心配になり何とかしたいと焦ってしまうけど、関わる人達で理由や対応を考えていくことが大切。

誤嚥と診断のついでに入居者さんは眉間にしわを寄せている。ついつい「えらいの？」と聞いてしまうのだが、「苦しいこともない、痛いこともない！」とハッキリ言われる。その眉間のしわが消える瞬間、「なにが食べたい？」と聞く。『うなぎ』と即答がある。見事に眉間のしわが消えるのだ。2ヶ月半の息子は母乳で笑顔、1歳9ヶ月の息子はゼリーで笑顔(勿論、ご飯もペロリ♪)、92歳の入居者さんは「ウナギ」の言葉で笑顔。食べ物で得る害(虫歯・誤嚥・肥満?)もあるけれど、害ばかりではないと思う。想像するだけでも、ものすごい力が食べ物には詰まっているように思う。



すずめ救出大作戦／ナイス・キッズ <R・W>

子ども達が外で遊んでいると、突然、空からすずめの赤ちゃんが降ってきた。事務所の屋根に作られているすずめの巣から赤ちゃんすずめが落ちてしまったのである。子ども達の行動は早かった。まずは寒くないようにと段ボールを用意し、エサの心配！先日、科学教室で作成した鳩のエサの標本を取り出し、惜しげもなく貼りつけた豆を取り外し与えてみる。食べない⇒ミミズを探す…。しかし、子ども達は考えた。「自分達が世話をして生きていられるのだろうか？」話し合いの結果、赤ちゃんすずめを巣に帰してあげることにした。思い返せば、1年前も同じ光景があった。その時は「自分達で飼う」と言い張り、結果、死んでしまったのである。この1年の間に、「すずめを飼いたい。でも、すずめは生きていけるのだろうか」と考えられる力がついたのだ。子ども達の「鳥助け、とり助け」の言葉にちょっと嬉しかった瞬間でした。しかし、3年生を肩車したのは辛かった。



美味しい？不味い？／ナイス・ケア <A・M>

食事を終えたHさんに「美味しかった？」と声を掛けた。いつものように「美味しかったよ」という答えを期待していた私。しかし、『固いし、まずかった。』と返事あり。日頃、無口だが、あまり批判的な事を言わないHさんからの返事に、私は一気にどお～んと落ち込んでしまった。Hさんのお宅にはヘルパーが1日に3回訪問している。訪問回数が多いゆえ、つい、慣れ合いの関係になっていったのかも。そう言えば、以前は調理の度に味見をしてもらっていた。最近では“これが好みの味”と分かったような気持ちになっていた。味見もしてもらっていなかった。馴染みの関係と慣れ合いとは違う。歯が弱り、味覚も変化しているHさんのことを考えて調理していただろうか、配膳していただろうか。日々の関わりの中で、その時の体調や様子を確認し、知ろうとすることを怠っていたのではないだろうか。帰りの車内で反省し、事務所に戻り、サービス提供責任者に報告した。早速、次回のカンファレンスで「Hさんの訪問時に作る肉じゃがを各自が作って、食べ比べてみよう」ということになった。私の料理…固いのかなあ。不味いのかなあ。他のスタッフにも食べて貰って意見を聞こう。

退院 ⇒ ナイス・ホームでの泊まり ⇒ 自宅へ／ナイス・ホーム <Y・O>

高齢になれば医療依存度が高くなり、入院の可能性も高くなります。入院期間が長くなればなるほど、在宅復帰への不安が大きくなり、特に高齢者世帯や一人暮らしの方は退院後、施設入所という傾向がよくみられます。先日、Fさんが退院。退院後の生活を心配し、ホームへ登録されました。“1週間をめどに自宅へ帰ろう”という予定。退院から1週間の間に、「(入院)前はご飯どうしてたの？お風呂は？」などと本人へ話しかけると途端に不機嫌になってしまいました。Fさんは一人暮らし。自信がない。でも戻りたい。でも不安。そんな葛藤の中にみえました。ちょっと背中を押しながら支えてくれる存在がFさんには必要だったのだと思います。そして、半ば強引に一緒に自宅へ一時帰宅をしました。自宅でのFさんはびっくりするほどテキパキと動かれました。それで吹っ切れたのか、その後は、「買い物に困るなー。風呂はどうしようかなー？」などスタッフと一緒に前向きに相談してくれるようになりました。予定通り、約1週間の滞在後、Fさんは自宅へ帰宅することができました。退院後、昼夜を一緒に過ごし、そのスタッフが自宅での生活も支えてくれる。そんな環境がFさんに意欲を持てるようになってくれたのではないかと感じます。今では「◎◎できたよ」「今日は何時に起きてゴミ出したよ」と嬉しそうにスタッフに教えてくれます。“自分で出来る自信と喜び”をFさんに感じてもらえている。紆余曲折はあるかもしれない。でも、継続できるよう、支えていきたいと思っています。



困った時こそお手伝い／つしま紹介所 <Y・I>

- ① 急に人の手助けが必要になった時 (大掃除や留守番の家事や介護サービス)
- ② 介護保険では頼めないことを助けて欲しい
- ③ 短時間や週1回、月1回又は夜間のみの手助けが必要
- ④ 入院して病院から家族付き添いを求められたが、都合が付けられない時 等



とても簡単な申し込み手続きや利用契約で、個々の事情に合った家政婦の利用方法を一緒に考え、実際のお手伝いを得ることが可能です。利用料金や仕事内容の相談など気軽にご相談下さい。専用電話番号:0567-26-1281

編集後記 <A・M>

スーパーでレジに並んでいた時、懐かしい人に会った。4年程前まで訪問介護を利用されていた方の娘さんだった。施設に入所されて、訪問介護は終了したが、昨年亡くなられたと聞いた。「あの時は大変だったわね。」入浴介助の度に大声で拒否された。あの時は必死だったが、今となっては笑い話。別の日、違うスーパーでは、亡き利用者さんの奥さんとバッタリ遭遇。どのご縁も利用者さんがいてこそ出来たもの。利用者さんが亡き後も、声を掛けられる関係で繋がることがありがたい。